

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アザレアンさなだの理念が基本です。その理念を胸に必要なとされるグループホームとなるよう、事業計画にあげ、努力しています。	理念を玄関や居間そして事務所に掲げている。職員会議で日々提供しているサービスを振り返り、理念が具体的に活かされているか、利用者は自分らしい生活が送れているかなどを話し合っている。職員本位の支援であったり、迷っている時には元に戻り、一番大切なことに立ち返るようにと場面場面で統括リーダーや管理者が助言している。ホーム便りにも事業所独自の理念を記載し利用者や家族に方向性を示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームに暮らしていても、自宅にいるときと同じように、普通の生活の継続を目指しています。地域の一員としての役割を持ち、地域の資源を活用しながら、交流を図っています。	法人として自治会に加入し回覧板が回り、地区内の清掃(草刈り、ゴミ拾いなど)活動にも参加している。在宅にいる高齢者との交流の場、「菅平ケア交流会(主催は地区民生委員、隣接宅老所、ホーム等)」では10~20名の地区高齢者と利用者が交流している。また、園児や小学生、童謡の会等ボランティアが隣の宅老所に見えた時にも出掛けて行き交流している。お助け隊(隣組・自治会長・民生委員等)の協力体制も得られている。住民からは野菜や花、山菜などの差し入れがあり、地域の一員として年々交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としてはまだまだですが、運営推進会議を活用し、出来るだけ多くの方に足を運んでいただいています。グループホームの活動報告を通じ、認知症の人の理解、ご支援が広がっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には菅平区役員、民生児童委員、福祉委員、消防団など多くの方に声を掛け参加していただいています。会議で伺ったご意見はアザレアンさなだで共有し運営に活かしています。	区長、副区長、峯の原区長、婦人会長、消防団分団長、長寿会長、民生児童委員(2名)、福祉委員(7名)、自治センター(市職員)、地域包括支援センター職員等の出席を得て年6回の開催を目指している。隣設の宅老所と合同で行い、事業内容や活動等を報告し、意見や助言を頂いている。参加者から地域との連携、特にお隣は大切との助言を受けゴミ拾いを一緒にしたり、回覧板を届けたりと関係を深めている。委員から避難訓練時にドアが外開きでは積雪があれば開かないとの指摘を受け法人本部と相談している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にご参加いただき、様々なご相談をさせていただいています。また、適切な助言をいただき、運営に活かしています。	市や保健所等からの研修連絡は法人にFAXで届き、各事業所に配信されている。事故報告に関しては本部に報告し行政に届ける手順になっている。福祉施設の防災防火対策に関する研修には防火管理者(管理者)が参加している。介護認定の更新申請は家族の依頼を受けて代行している。区分変更は家族の了承を得てから代行している。認定調査員がホームに来訪し調査も行われている。介護相談員2名が2ヶ月に1回訪問し、利用者と話したり職員を労い話もしている。	

菅平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の取り組みについて、法人では毎年研修を行っています。転倒などの事故が起きるたび、慎重に事故検証を行い、拘束しないケアを確認しあっています。	法人の年間研修計画が組まれており、「身体拘束排除」など毎月何らかの研修が行われている。職員は研修やホーム会議での話し合いを通し身体拘束の内容やその弊害を認識しており、全ての拘束、利用者の行動を制限しないケアを実践している。外出傾向の利用者は現在はいないが職員が付き添い外出するようになっている。利用者が生き生きと本人らしく暮らし続けられる雰囲気作りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアの場面での気づきを、日頃より話し合っています。馴れ合いになってしまい、虐待が見えなくなってしまうように、何でも言い合える雰囲気作りを大切にしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の方が成年後見人と日常生活自立支援事業を利用されています。職員の中ではまだ理解の浅いところもあり、全員が理解できるよう学んでいく必要が有ります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、説明し、不明な点心配等伺っています。契約内容の改定時には、法人全体で説明する機会を設け丁寧に対応させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族のご意見は法人として承り、共有しています。職員間でも共有し、改善につなげるようにしています。	自分の思いや希望を表せる利用者が多い。外出や入浴、献立等の要望は個別対応として希望を叶えている。今年には家族交流会を企画し利用者、家族、職員が菅平牧場で牛と写真を撮ったり眺望に感動し、ホテルではピザ作りに挑戦しユックリと交流ができ参加者からも喜ばれた。個人情報に配慮したホーム便りと個人別に写真と日々の様子を書き家族に送っている。家族からは何時も笑顔で迎えてくれる、訪問し易いと職員の対応の良さを褒める言葉も聞かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や一人ひとりの職員から運営に関する意見や提案を聞く機会を持つようにしています。改善できるものは速やかに変更し、意見を反映させています。	毎月、法人全体会議、ホーム会議、カンファレンスが開かれている。目標管理制度が導入されており、職員は年度目標を立て年度末に統括リーダーと面接し、目標の達成状況を報告し業務や運営等に関する意見や要望も伝えている。各職員は法人の委員会に所属し業務の見直しや改善に向けて話し合っている。新人職員は担当者から指導を受け研修レポート30枚を提出し、その都度、担当からのコメント、管理者、統括リーダーからも助言や指導を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループホーム統括リーダーが全職員と面接し、労働環境面の相談を行っています。職員が働きやすく、やりがいがあるよう、相談しやすい雰囲気作りに努めています。		

管平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より『研修手帳』を持つ事になりました。研修記録の記入によって成果が見え、張り合いになっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上田市東御市のグループホームと連絡会を持っています。相互評価や会議を通じ、意見交換を行い、共にサービスの向上に努めています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には、直接ご本人と会ってお話をしています。グループホームの生活を安心して始めていただけるよう、ご本人の要望、心配な点等をしっかり伺うようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを始めるに当たり、介護するご家族の困っている事、要望を伺い、ご家族の心情に寄り添い、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけにとらわれず、必要があれば他事業所とも連携をとり必要なサービスを使っていただけるよう、努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の皆様は、人生の大先輩です。長い暮らしの中で培った知恵や工夫を伺いながら、このグループホームの暮らしが豊かになるよう、協力し合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にとって大切なお父様お母様、ご兄弟です。離れていても、いつも思っているご家族との絆を大切に、職員はご家族と一緒に支える関係でいたいと願っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暮らしてきた地域へ出かけていく機会を出るだけ持てるようにしています。なじみのお店やお友達と交流でき、楽しい時間を過ごしていただいています。	利用開始時に本人の生活習慣、知人や友人との関係、商店や行き付けの理美容院などの情報を家族や担当ケアマネジャーから得ている。毎年お盆やお正月に家族が迎えに来て自宅へ外泊や外出する方、隣接の宅老所に通ってくる知り合いとの関係を継続している方もいる。家族以外にも親戚や近所の知人、民生委員などが訪ねている。職員の運転で本人が住んでいた自宅を見に行く利用者もいる。	

菅平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	コミュニケーションが難しい方もいらっしゃい ますが、利用者さん同士心地よく関係を持 てるように、職員は見守ったり、一緒に話し たり、お手伝いをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も必要に応じて、ご相談させ ていただいています。また、お亡くなり になった方には、お写真を送らせていただい たり、お電話等で、ご家族の近況を伺ったり しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	その方の生活暦を知って、その時代や環境 に思いをめぐらし、その方の思いを分かりた いと考えています。その時々思いを広い 視点でとらえ、理解するよう努めています。	殆どの利用者は思いや意向、希望などを言葉で伝えること ができる。職員の問い掛けの工夫(複数選択肢、二者択一 等)により、表情や仕草で気持ちを表す方もいる。一人ひと りの意思表示手段を把握しており、今日は何をしたいの か、どうしたいのか、また、思いは何かと日々、職員は利用 者一人ひとりに話し掛けたり、表情から本人の思いや意向 を把握するようしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご本人のお話やご家族のお話を元に生活 暦の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	24時間シート、1週間のトータルな記録用紙 を使い、心身の状態を把握できるようにして います。1週間ごとにチェックを行い、職員間 で共有し、良い状態でお過ごしいただけるよ う努力しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で気づいたこと、課題等 は速やかに検討しています。ご本人、ご家 族からのご要望があったときにも、職員間で 共有し、介護計画に反映しています。	本人、家族の意向を基に本人らしく生き活きと暮し続けられ る介護計画を計画作成担当者が職員の意見や気づきを参 考に作成している。担当者会議も定期的開催し、評価、 見直しは3ヶ月毎にカンファレンスの中で行っている。家族 の意向や本人の変化の有無の確認、目標や援助計画を全 職員で評価、見直し現状に即したものにしている。職員は 全利用者の介護計画作成、モニタリングに関わっており支 援内容を把握している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録と共に、職員間の情報交換を密に しています。日々のケアの見直しは臨機応 変に行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームで出来る限りサポートしたい と考えています。外出も可能な範囲でマン ツーマンでサポートしたり、在宅であれば でき、グループホームではできないというこ とを減らしたいと考えています。		

菅平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみのボランティアさんがいて、その方と旅行に出かけた方があります。社会福祉協議会のサービスを利用したり、地域の電気屋さんが家族のようにお付き合いしてくださっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご契約時に主治医を継続されるかどうか伺っています。協力医に変更される方がほとんどですが、希望時は専門医の受診は可能です。	地域唯一の医療機関がホームの協力医であり、4週間毎に往診し、利用者の疾病や健康状態を診察している。往診時に利用者はインフルエンザ予防接種を受けている。専門医の受診付き添いは家族に依頼しているが、緊急時や入院時には職員が付き添い、受診先や入院先で家族と落ち合うようにしている。協力歯科医はホームから往診依頼を受け診療のため来訪している。月2回、同じ法人の訪問看護ステーションから訪問看護師が来訪し、利用者の健康管理や職員の相談に応じており、24時間オンコール体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	アザレアンさんなどの訪問看護ステーションと医療連携を行っています。体調変化や心配事でも相談しやすく、必要な助言が受けられます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院へ情報の提供を行い、入院期間中もお見舞いに伺い病院の様子をうかがっています。グループホームでの様子をお伝えし、ご利用者さんの状況をご理解いただけるよう努力しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より重度化したときのお話をしています。必要時には何回でもご説明し、ご家族の意向を確認しながら、終末期の援助を行っています。	契約時にホームの方針「重度化した場合や終末期のあり方について」を説明し、本人、家族の意向を伺っている。本人の状態に変化があった時には改めて本人家族の意向を確認し同意書を取り交わしている。状態変化や家族の意向が揺れ動いた際に、医師、看護師、職員が家族と話し合い、納得し安心できる最期を迎えられるように心を込めた支援に取り組んでいる。お別れ時には利用者も一緒にお見送りしている。ホームで最期を迎えた利用者の家族からは「此処に来るのが楽しみだった」、「此処を利用してよかった」等、感謝の言葉が伝えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の研修会で救急法、急変時の対応について学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を地域の方も交えて行っています。主に火災想定になりますが、最近の自然災害も含め、訓練の必要性を感じています。今後は地震などの災害の訓練も行いたいと思います。	6月、9月とも夜間想定避難訓練を消防団の協力を得ながら隣の宅老所と合同で行っている。車椅子の利用者も含め全員参加し職員の誘導を受け避難している。お助け隊（隣組、自治会長、民生委員等）も協力している。年2回職員の連絡網を使った訓練も独自に行っている。自動火災報知機、自動火災通報装置、スプリンクラーなどが完備されている。全職員が救急救命法を受講できるよう毎年計画している。利用者の安全安心のために自然災害の訓練も実施したいと考えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人が、かけがえのないただ一人の方として、尊び、その方の人生、暮らしをいつくしみ、大切にしたいと考えています。	法人全体の年間研修計画に「法令順守、倫理について」、「プライバシー保護について」が組み込まれている。利用者の尊厳に関しては職員教育が徹底して行なわれ、更にホーム内でも振り返り勉強会を行っている。毎月の法人全体会議で15項目からなるアザレアン宣言を読み合わせしながら、自らの振り返りや利用者に向う姿勢をリセットしている。利用者を人生の先輩と敬い、利用者の立場にたった支援に努めており、利用者への声掛けは本人の目を見ながら苗字や名前に「さん」を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のちょっとした場面でもご本人のご希望をうかがうようにしています。また、ご本人が分かりやすい言葉で、伺うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日中お昼寝をする方もあれば、「やる事があつたらさせておくれや」と、細々と働く方にも、お散歩に出かける方様々です。毎日違ったお一人お一人の時間をすごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの髪型で、好きな服を着ていただいています。お好みの服を着ていただくと、リラックスしてお過ごしいただけるようです。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事から話題が広がります。その中で食べたい物や懐かしい食べ物の話題が聞かれます。出来るだけご希望に沿ったメニューや味を取り入れています。台所がみなさんの活躍の場になっています。	1つのテーブルを利用者、職員が囲み話しをしたり、笑ったりして楽しい時間を過している。献立はその日の調理担当職員が冷蔵庫や頂き物の野菜などを見て利用者へ何が出来るか相談することもある。献立は作ったものを記録し法人管理栄養士に見てもらっているが、「バランスが良い」と言われている。誕生日は本人の希望や好きな料理、ケーキで祝っている。ベランダには網に入った切り干し大根が干されていた。今後、料理を写真に撮ってホーム内に掲示（また、お便りにも）し、利用者家族にも見て頂くことも考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間、7日間分の個別記録を活用し、食事量、水分量を把握しています。また、体重測定を行い、必要水分量を把握しています。		

管平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが食べる事だけでなく、肺炎予防や認知症予防になるという理解をもち、お口の清潔に努めています。どうしても出来ないときもあり、時間や場面の工夫をしながら無理のない範囲で行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の記録シートを活用し、排泄のタイミングを把握できるようにしています。リハビリパンツから布のパンツへ移行できた方もあります。	一人ひとりの排泄リズムや仕草、動きを全職員は共有し利用者の様子をみながら、さり気なく声を掛けたり、付き添いながらトイレへ誘導している。本人が使っている介護用品について職員はこまめに検討(パットの厚さやリハビリパンツなど)し本人が使って楽な物、具合の良い物にしている。夜間ポータブルトイレを使っている方、起きてきてトイレで排泄が来ている方、オムツを使う方など一人ひとりの気持ちにそった対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方が多く、下剤に頼る状況です。便秘に良い食べ物や水分摂取など工夫をして、出来るだけ下剤を減らしていけるよう努力しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回ほど入浴していただいておりますが、曜日、時間は特に決めてはしません。その日の体調やご希望で入浴できるようにしています。	入浴日は特に決めていないが殆どの利用者が週2回は入浴している。菖蒲湯、柚子湯などで昔を懐かしみ、入浴剤は様々なものを使い、色や香りを楽しんでいる。白色系のは湯船の中が見えないため使っていない。1,300mの高原は夏場でも涼しい土地柄であり湯船に浸かりユックリ気持ち良く入浴している。入浴そのものを理解、認識できず「イヤだ」と言う方には、お風呂にBGMを流したり足を温めたり、お風呂を認識できるまで話しをし入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその日の体調に合わせて、ご自分のお部屋やリビングで休んでいただいております。お一人お一人にあった安心して休める環境にし、睡眠を重視しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については、個人ファイルに綴り、確認できるようにしています。訪問看護ステーションとも連携し、内服の相談をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループホームの中だけではなかなか気分転換出来ない事もありますが、暮らしの中で工夫し、楽しみが見つけれられるようにしています。		

菅平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	菅平は冬季、気候が厳しく、なかなか外出する事ができません。気候の良いときに、できるだけ外へ出て散歩したり、お茶を飲んだり出来るようにしています。また、なじみの場所や希望の場所へ出かけられるようにしています。	日常的にはホーム周辺を散歩している。春は花見で峯の原、牧場、上田公園へ出かけ、夏はサニアパーク総合運動公園施設、ラクビー見学、秋には法人施設全体が集う敬老会、運動会、ぶどう狩りなどを楽しんでいる。行事外出時には隣接の宅老所から運転手付きで送迎車を借りたり、法人のリフト車を借り、車椅子の利用者も一緒に出掛けている。また、ホームを囲む木々の紅葉を觀賞しながらお茶会を楽しむこともある。冬は背丈以上の雪が降るため屋内で過ごすことが多いが、時々スーパーヘドライブがてら食材などを買いに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお買い物が出来る方はわずかでず。ご希望があればお買い物と一緒に出かけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話していただいています。ご家族、ご親戚からお手紙や贈り物が届いたときは、出来るだけご本人がお電話でお話いただけるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者さんが外で摘んだ花や植物を飾り、季節感を感じていただけるようにしています。照明は全体にやや暗めですが、落ち着いた雰囲気を感じ出しています。	居間兼食堂と台所は各利用者の居室の中心にあり、吹き抜きの天井の一部がロフト作りで雪の季節には洗濯物を干す場所になっている。窓際にはソファコーナーがありテレビと水槽もあり中には尾びれの長い立派な金魚が悠然と泳いでいた。天井には大きなシーリングファン、二重サッシや床暖房が施されているので寒冷地ながら冬場でも屋内は暖かい。利用者は職員と一緒に茶を飲んだり、来訪者を笑顔で迎え、運動したり作業をしたりして春の訪れを待っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事場所の横にソファがあり、くつろぐ事が出来ます。並んで座ると、話が弾むようです。別のソファでひとり、ゆっくりくつろぐ方もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れたお布団、家具などを持ち込んでいただいています。壁にはご家族の写真や飾っていただいたり、好きな絵を飾られている方もいます。	居室の入口にはそれぞれ違った暖簾が下がり、お湯の出る洗面台、クローゼット、エアコンが備え付けられ、外には洒落たベランダもある。家族写真もあるが、全居室の壁には行事などのスナップ写真が飾られている。利用者が以前描いたという素人離れた美人画がある居室など、その人らしい雰囲気が感じられる居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設えの分かりやすさには個人差があります。小さな工夫で介助ではなく、ご自分で出来ることが増え、自立的に暮らしていただけるよう努めています		